



企画展

琵琶湖文化館所蔵の名品

—彦根ゆかりの書画とやきもの—

5/20(金)
～
6/21(火)

湖東焼 色絵花卉図鉢
鳴鳳絵付

滋賀県立琵琶湖文化館蔵

赤や黄、緑などの釉薬で絵付を施した鉢。側面には紫陽花と紅白の梅花、見込には風露草と蝗が描かれています。底部に「湖東／鳴鳳」の銘があり、湖東焼の代表的な絵付師、鳴鳳の作であることが分かります。

鳴鳳といえば、赤絵金彩の作品がよく知られています。本作では珍しく色絵の技法が用いられています。とりわけ注目されるのは、余白を効果的に残した模様配置であり、鳴鳳らしい創意が感じられます。模様描写は細密であり、伝統的な型にはまらない写実的な表現が、新鮮な印象を与えます。

展覧会
情報

企画展

琵琶湖文化館所蔵の名品
—彦根ゆかりの書画とやきもの—

5月20日
▼▼▼
6月21日

テーマ展

千変万化 美しき水の意匠

6月24日
▼▼▼
7月26日

テーマ展

兜 その形と美

—星兜から変わり兜まで—

7月29日
▼▼▼
8月30日

テーマ展

井伊家伝来

狂言の面と装束

9月2日
▼▼▼
9月27日

企画展

展示室1

5/20 (金) ～ 6/21 (火)

琵琶湖文化館
所蔵の名品

—彦根ゆかりの書画とやきもの—

滋賀県立琵琶湖文化館は、県内公立博物館のさがけとして半世紀以上の歴史を有し、近江の文化財の宝庫として知られています。

本展では、その所蔵品から、彦根出身の書家として名高い日下部鳴鶴の書跡や、同じく彦根出身の絵師張月樵の絵画、彦根で制作された湖東焼など、彦根ゆかりの名品を紹介します。



長春孔雀図 張月樵筆 (滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

ギャラリートーク

日時 5月21日(土)
11時～、14時

講師 奥田 晶子 (当館学芸員)

テーマ展

展示室1

6/24 (金) ～ 7/26 (火)

千変万化

美しき水の意匠

水は、人間にとって最も身近で大切な存在として、古来、さまざまな物に表現されてきました。そこには、流れゆく水を表した流水文や、波が連なる様を图案化した青海波文、荒波を表した荒磯文といった、定まった形を持たない水の姿が実にさまざまな形で表されています。

本展では、水を巧みに意匠化した絵画や能装束、茶道具などの美術工芸品を展示します。その変化に富んだ魅力をお楽しみ下さい。



交趾荒磯文様香合

ギャラリートーク

日時 6月25日(土)
11時～、14時

講師 茨木 恵美 (当館学芸員)

テーマ展

展示室1

7/29 (金) ～ 8/30 (火)

兜 その形と美

—星兜から変わり兜まで—

兜は、頭部を守る重要な防具です。その形は、戦闘形態の違いにともなって変化し、時には自己を主張するために目を引く形状や装飾が取り入れられることもありました。

本展では、館蔵品を通して、兜に求められた機能、あるいは意匠を紹介いたします。さまざまな形の兜をお楽しみいただくとともに、その形が作り出された背景にもご注目ください。



頭巾形兜

ギャラリートーク

日時 7月30日(土)
11時～、14時

講師 古幡 昇子 (当館学芸員)

テーマ展

展示室1

9/2 (金) ～ 9/27 (火)

井伊家伝来
狂言の面と装束

—

狂言は、猿楽の滑稽なものまね芸が洗練されて、鎌倉時代から室町時代に成立した喜劇です。幽玄を旨とする能とは異なり、笑いを誘う台詞と身ぶりによって、中世の庶民の姿をいきいきと描き出します。

本展では、能面、能装束とは異なる、狂言の諧謔味ある面や大胆なデザインの装束の魅力を紹介いたします。



狂言面祖父



狂言装束紺地蟹文様

ギャラリートーク

日時 9月3日(土)
11時～、14時

講師 茨木 恵美 (当館学芸員)

金亀玉鶴



彦根城下町の礮打ち

江戸時代、彦根藩から藩士に対して禁令や指令が出されることがありました。『御法度類并風俗二付御示類』（彦根藩井伊家文書）という史料には、江戸時代前半頃の、そのような藩士に対する触が数多く記されています。その中に「礮を打つ（投石すること）の禁止があります。端午の節句のときの善利川の堤防での石合戦や葬礼場における礮打ちもありましたが、大半は婚礼の際の礮打ちで、数年〜十数年間隔で出され続けています。具体的にみてみましょう。

「井伊家の家来たちに祝言があるときに、下々の者が礮を打っているとのこと、不作法であることは論をまたないことである。互いのためであるので、召使いの者どもへも厳しく申し付け、今後もし礮を打つ者を見つければ、見つけ次第成敗するように（後略）」

主旨としては「礮を打つ」（投石すること）を禁止する内容ですが、ここではむしろ、禁令が出される前提として、禁止されている行為が行われていたことに注目します。

この史料によれば、婚礼の際に、嫁入

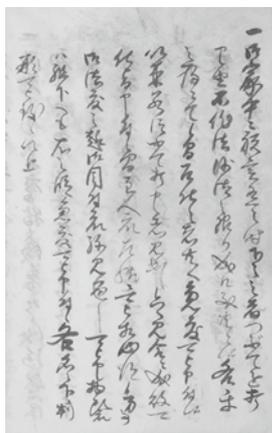
りした家に向かって、「下々の者」が礮を打つ状況がありました。藩士の家で働く召使いの中にも、このような乱暴な行為に出る者がいたことが分かります。それも、家屋を荒らすという事態にもつながる激しい礮打ちでした。それが何度もある禁止が繰り返されているということは、禁止しても守られず、実際にはその行為が根強く続いていたことが推測されます。史料中にも、「かねてから御法度である何度も触れているが、いまだにこの行為が行われている」と書かれているものもあります。

このような礮打ちは現在ではほぼ見ることはできませんが、かつて日本に礮を打つ習俗があったことはすでに研究されています（中沢厚『つづて』、網野善彦『異形の王権』など）。それによると、礮を打つ習慣は、端午の節句などの年中行事や祭礼の中での石合戦をはじめ、さまざまな場面でみられ、その歴史は鎌倉時代以前にまで遡ることが出来ます。その中に婚礼の際に礮を打つ習俗もありました。このような習慣が大正〜昭和初期まで残っていた地域があり、そこでは、嫁が婚家に入ったあとに家の前方から礮を投げ、いったん嫁いだ上は「追い込む」「出てくるな」、つまり離縁がないように願う意味を持っていました。単に乱暴を働いていたわけではなく、民俗的な理由もあつたようです。

ところで、何度も禁令が出されるのは

礮打ちに限ったことではありません。例えば婚礼の際の華美な服装や度の過ぎた贈答なども禁止が命じられています。ただ、贅沢に傾きやすいのは人間の性質として理解できるのではないのでしょうか。では、礮打ちはどうでしょうか。礮打ちはけがをする可能性も高い行為ですが、江戸時代にも根強く残っていました。現代の祭でも危険な行為を顧みずに行うものがあり、その背景には祭の高揚感や日常の秩序から解き放たれている感覚といったことがあることと思います。礮打ちも鎌倉時代以前から続く民俗でもあるわけであり、それと類似の感覚があつたと想定しても良いと思います。

一方、彦根藩は礮打ちは「不作法」だとして禁止しています。民俗的背景は考慮せず、為政者としては社会の秩序を維持したいということでしょう。「下々の者」に残る礮打ちの民俗と、為政者の意識とがぶつかり合っている、このような状況の中で、礮打ちの禁止が命じられていると考えます。（早川駿治）



御法度并風俗二付御示類

能・狂言

◎水無月狂言の集い◎

開催日時・場所

6月18日（土） 18時30分開演（18時開場）

当館能舞台

■演目

大蔵流狂言 【解説】 茂山 千三郎

「横座」 茂山 あきら

「泣尼」 茂山 七五三

「首引」 茂山 茂

■チケット

全席指定

A席（正面席） 3千5百円

B席（脇正面席） 3千円

5月18日発売開始

◎第50回彦根城能◎

開催日時・場所

9月10日（土） 15時30分開演（15時開場）

当館能舞台

■演目

金剛流 能「巴」 今井 清隆

大蔵流狂言「魚説教」 茂山 正邦

金剛流 能「枕慈童」 種田 道一

■チケット

全席指定

A席（正面席） 5千5百円

B席（脇正面席） 5千円

8月10日発売開始

*開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。

*チケットは当館受付およびお電話にてお求めいただけます。

*発売初日は、館内販売9時〜、電話予約10時〜



スケジュール 6月～9月

9月	8月	7月	6月
<p>17土 教室 古文書のみかた⑥</p> <p>10土 能。能言 第50回彦根城能</p> <p>3土 井伊家伝来 狂言の面と装束</p>	<p>27土 教室 古文書のみかた⑤</p> <p>6土 教室 古文書のみかた④</p>	<p>30土 兜 その形と美 —星兜から変わり兜まで—</p> <p>16土 幽霊探訪 あなたの街の歴史探訪 (西地区公民館)</p> <p>9土 教室 古文書のみかた③</p> <p>2土 幽霊探訪 あなたの街の歴史探訪 (鳥居本地区公民館)</p>	<p>25土 千変万化 美しき水の意匠</p> <p>18土 能。能言 水無月狂言の集い</p> <p>16木 幽霊探訪 あなたの街の歴史探訪 (河瀬地区公民館)</p> <p>11土 教室 古文書のみかた②</p>
<p>テーマ展</p> <p>井伊家伝来 狂言の面と装束 9/2～9/27</p>	<p>テーマ展</p> <p>兜 その形と美 —星兜から変わり兜まで— 7/29～8/30</p>	<p>テーマ展</p> <p>千変万化 美しき水の意匠 6/24～7/26</p>	<p>企画展</p> <p>琵琶湖文化館所蔵の名品 —彦根ゆかりの書画とやきもの— 5/20～6/21</p>
<p>常設展示 “ほんもの”との出会い</p>			
<p>8/30-9/1 展示替により一部休室</p>	<p>7/27-28 展示替により一部休室</p>	<p>6/21-23 展示替により一部休室</p>	

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

◎彦根城博物館出張講座「あなたの街の歴史探訪」◎

本講座では、当館学芸員が公民館地区ごとにテーマを設けて、その歴史や地域の文化財についてわかりやすく紹介します。

- 開催日時・場所・内容
- 第3回 6月16日(木)
- 河瀬地区公民館 定員60名
- 「河瀬の村々の歴史」
- セレクト史跡・文化財
- 「極楽寺・地藏菩薩立像」
- 第4回 7月2日(土)
- 鳥居本地区公民館 定員100名
- 「鳥居本豊宗寺の歴史」

- セレクト史跡・文化財
- 「描かれた摺針峠」
- 第5回 7月16日(土)
- 西地区公民館 定員100名
- 「湖東焼の窯場」
- セレクト史跡・文化財
- 「大洞の大坂陣戦死家臣供養石塔」
- *各回とも、午前10時～11時30分まで
- 資料代 各回100円
- 受講方法 当日受付
- (事前申し込み不要。先着順)

◎キッズサマースクール◎

夏休み期間中、狂言や茶道などの伝統文化や歴史に親しむ「キッズサマースクール」を開催します。バラエティに富んだプログラムを準備しましたので、ふるってご応募下さい。

【内容・日程】

- ①狂言教室(小学5・6年生対象)
- 日程
- 7月31日(日)、8月1日(月)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、15日(月)
- の午後2時30分～4時30分、16日(火)の午後1時～4時30分(予定)
- 講師
- 和泉流狂言師 小笠原 匡氏ほか
- 定員 12名(応募者多数の場合は抽選)
- ②博物館体験(小学1～6年生対象)
- 内容 博物館探検、茶の湯体験など
- 日程 8月8日(月)、9日(火)
- 1～3年生…午後1時30分～3時30分
- 4～6年生…午前10時～12時

【会場】 当館(能舞台・講堂 他)

【対象】

- 講師 当館学芸員
- 定員 1～3年生…40名
- 4～6年生…20名
- (応募者多数の場合は抽選)

【申込方法】

各小学校に配布、もしくは当館ホームページに掲載する案内チラシの申込用紙に記入し、持参・郵送・ファックスのいずれかの方法でお申込み下さい。

【申込期間】

6月15日(水)～7月8日(金)

(当日消印有効)
*各コースにつき保険料・資料代200円が必要
です。



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は8円です。